

共同住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

三日市 A 遺跡 2

2011

石川県野々市町教育委員会

例 言

- 1 本書は、三日市A遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は、石川県石川郡野々市町字二日市地内である。
- 3 調査原因は共同住宅建設に伴うものである。
- 4 調査は、中田正司氏からの依頼を受けて野々市町教育委員会が実施した。
- 5 調査にかかる費用は、中田正司氏が負担した。
- 6 調査は、平成21年度に実施した。遺跡名・面積・期間・調査体制は下記のとおりである。

遺跡名 三日市A遺跡
面積 94㎡
期間 平成21年9月7日～平成21年9月14日
調査主体 野々市町教育委員会（教育長 村上維喜）
担当課 野々市町教育委員会 文化振興課（課長 山下真弓）
調査担当 永野勝章（野々市町教育委員会文化課 主査）
整理・報告書作成作業
担当 永野勝章
増山明美（野々市町教育委員会 臨時職員）

- 7 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北を指し、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠している。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は、遺跡ごとに本文・観察表・挿図・写真で対応する。
 - (4) 挿図の縮尺は図に示すとおりである。また、写真図版における遺物の縮尺は統一していない。
- 8 調査に関する記録と出土遺物は、野々市町教育委員会が一括して保管・管理している。



第1図 調査区位置図 (S=1/5000)

第1章 調査の経過

第1節 調査の経過

平成21年8月17日、開発者から野々市町教育委員会（以下、町教育委員会）に対して野々市町字二日市16街区4において共同住宅を建設するための農地転用予定地の埋蔵文化財について調査依頼があった。町教育委員会では対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地内（三日市A遺跡）であると回答し、双方の間で協議を行い建設工事によって地下の遺跡に影響の及ぶ建物部分について発掘調査を行うことで合意した。8月30日開発者より文化財保護法第93条第1項による土木工事等のための発掘届が町教育委員会に提出された。町教育委員会では建設工事によって地下の遺跡に影響の及ぶ範囲については発掘調査を行うとの意見を付して石川県教育委員会（以下、県教育委員会）に進達し、9月1日県教育委員会より発掘調査を実施する旨の通知があった。同日開発者と町教育委員会の間で埋蔵文化財発掘調査の契約が締結された。調査面積は94㎡である。

第2節 発掘作業の経過

- 9月7日 調査範囲設定・重機による掘削開始。
- 8～10日 作業員による発掘調査。
- 11日 補測。
- 14日 機材搬出。調査終了。

第3節 整理作業・報告書作成

整理作業及び報告書作成は平成23年2・3月に実施した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

野々市町は、石川県のほぼ中央に位置する。北東は金沢市、南西は白山市に隣接している。町の規模は東西約4.5km、南北約6.7km、面積は約13.56km²である。町域は手取川扇状地の扇中央部から扇端部に位置し、南東から北西に向かって緩やかに傾斜している。三日市A遺跡は野々市町の北部にあたる二日市町・三日市町地内に所在する。標高は約15mと低く、扇状地を伏流する地下水の湧水域である。三日市A遺跡周辺は田畑の広がる田園地帯であったが、昭和40年代に国道八号線の開通や国鉄野々市駅（現在のJR野々市駅）の開業があり周辺において住宅建設が進んだ。更に平成11年より始まった野々市町北西部土地区画整理事業によって、商業施設の建設や宅地造成が進み、景観は大きく変わりつつある。

第2節 歴史的環境

野々市町における人々の営みは縄文時代に遡る。御経塚遺跡は縄文時代後・晩期の北陸を代表する大集落跡であり、その周辺には金沢市のチカモリ遺跡や中屋遺跡等も所在する。

弥生時代前・中期の集落跡は野々市町ではほとんど確認されていない。しかし後期になると御経塚遺跡・押野タチナカ遺跡など町域北部に位置する御経塚地区と押野地区に大規模な集落跡が現れるほか、高橋川流域の自然堤防上を中心に高橋セボネ遺跡などの小規模な集落跡が分布する。

古墳時代前期に入ると弥生時代後期に比べて集落数は減少するが、町域北部に所在する御経塚シンデン古墳群や二日市イシバチ遺跡では前期の古墳が発見されている。一方これまで扇状地扇端部に比較して開発が低調であった扇中央部に立地する町域南部でも7世紀前半代には上林古墳・末松古墳といった後期古墳が築造された。更に7世紀後半には石川県最古の寺院跡である末松廃寺が建立され、扇状地開発が大いに進んだことが明らかになっている。

古代には前時代に引き続き町域南部から中部にかけて上林新庄遺跡群や粟田遺跡・三納アラミヤ遺跡などで集落が展開する。また町域北西部の三日市A遺跡ではこの時期の集落とともに古代北陸道が築造されている。

鎌倉時代に入ると野々市町東部の扇が丘ハワイゴク遺跡や扇が丘ゴショ遺跡では武士の居宅と見られる遺構が検出されている。室町時代には住吉町から扇が丘にかけては加賀国守護を務めた富樫氏の居館である富樫館跡が築造される。この他粟田遺跡や三納ニシヨサ遺跡・三日市A遺跡・徳用クヤダ遺跡・長池キタノハシ遺跡など町域の広い範囲で集落跡を確認している。

近世では町域内に所在する現在の各集落の原形が形成されていったものと考えられ、御経塚遺跡デト地区や粟田遺跡などでは発掘調査によって近世の遺構・遺物が発見されている。

第3章 調査の成果

第1節 層序

今次調査における調査区の基本的な層序は地表（田面）から盛土・耕作土・床土・褐灰色粘質土・暗褐灰色粘質土・灰褐色粘質土・暗灰褐色粘質土・暗褐色粘質土となっている。これまでに実施された近隣の発掘調査の成果などから盛土・耕作土・床土は近代以降、褐灰色粘質土は近世、暗褐灰色粘質土・灰褐色粘質土・暗灰褐色粘質土は中世、暗褐色粘質土はそれ以前の時期と考えられる。

第2節 遺構と遺物

遺構

今次調査では井戸・土坑・小穴が確認された。本報告では井戸・土坑について説明を行う。なお遺構の番号は通し番号である。

土坑8（第2・3図）

調査区南西に位置する。土坑9と小穴11に切られている。略五角形で、規模は2.6×2.6m、深さは60cmを測る。土層の観察から土層3～13の覆土が一旦埋まった後、土層1・2にあたる1.5m×1.0mの規模の穴が再び掘削されたことが分かった。珠洲焼片口鉢(9)を出土している。時期は中世である。

土坑9（第2・3図）

調査区南西に位置する。土坑8を切っている。略円形で、直径1.3m、深さは46cmを測る。覆土はレンズ状に堆積しており、自然に埋まったものである。時期は中世以降である。

土坑10（第2・3図）

調査区北西に位置する。井戸17を切っている。略楕円形で、規模は2.5×1.2m、深さは32cmを測る。小片のため図示していないが中世土師器皿が出土しており、時期は中世と思われる。

井戸13（第2・3図）

調査区南側に位置する。土坑15を切っている。素掘りの井戸で、形状は略円形、直径は3.3mで、深さは最深部で82cmを測る。覆土は灰褐色粘質土に大小の礫を含むものが主体で、人為的に埋められたようであり、その後一部分は浅く掘り返されている。

土坑15（第2・3図）

調査区南東に位置し井戸13に切られている。形状は不整形で、規模は3.1×1.6m以上、深さは35cmを測る。覆土から中世のものと判断する。

井戸17（第2・3図）

調査区北側に位置し、土坑10に切られている。2基の素掘りの井戸が重なっているが新旧は分からなかった。いずれも歪な楕円形で直径は2.4mと2.9mを測る。粗製深鉢(3)・中世土師器皿(6)・越前焼甕(10)が出土している。時期は中世である。

遺物（第4図）

今次調査での出土遺物は縄文土器・須恵器・中世土師器皿・珠洲焼・越前焼である。このうち図示可能な10点について説明を行う。

1・2は酒見式の深鉢である。包含層から出土した。胎土はにぶい黄橙色で、外面には平行する沈線や縄文が施されている。3は粗製深鉢の底部で、胎土は灰白色、径は42mmを測る。すだれ状圧痕が残る。縄文時代末期と思われる。4は須恵器瓶の口縁部である。胎土は灰色である。5は須恵器有台杯である。胎土は灰褐色、口径11.3mm、高さ38mm、底径は88mmを測る。3～5は井戸17から出土しているが、混入したものと思われる。6～8は中世土師器皿である。6は胎土が灰黄褐色、口径86mm、器高22mm、底径51mmで、底部に回転糸切痕が残る。井戸17から出土した。7は胎土がにぶい黄橙色、口径は78mmである。包含層からの出土である。8は胎土がにぶい黄橙色、口径は90mmを測る。包含層からの出土である。9は珠洲焼の片口鉢である。胎土は灰色で、口径は373mm、口縁部には波状文が施されている。土坑8から出土した。10は越前焼の甕である。胎土は灰白色で一部に自然釉がかかる。底径は217mmを測る。井戸17より出土した。

第4章 総括

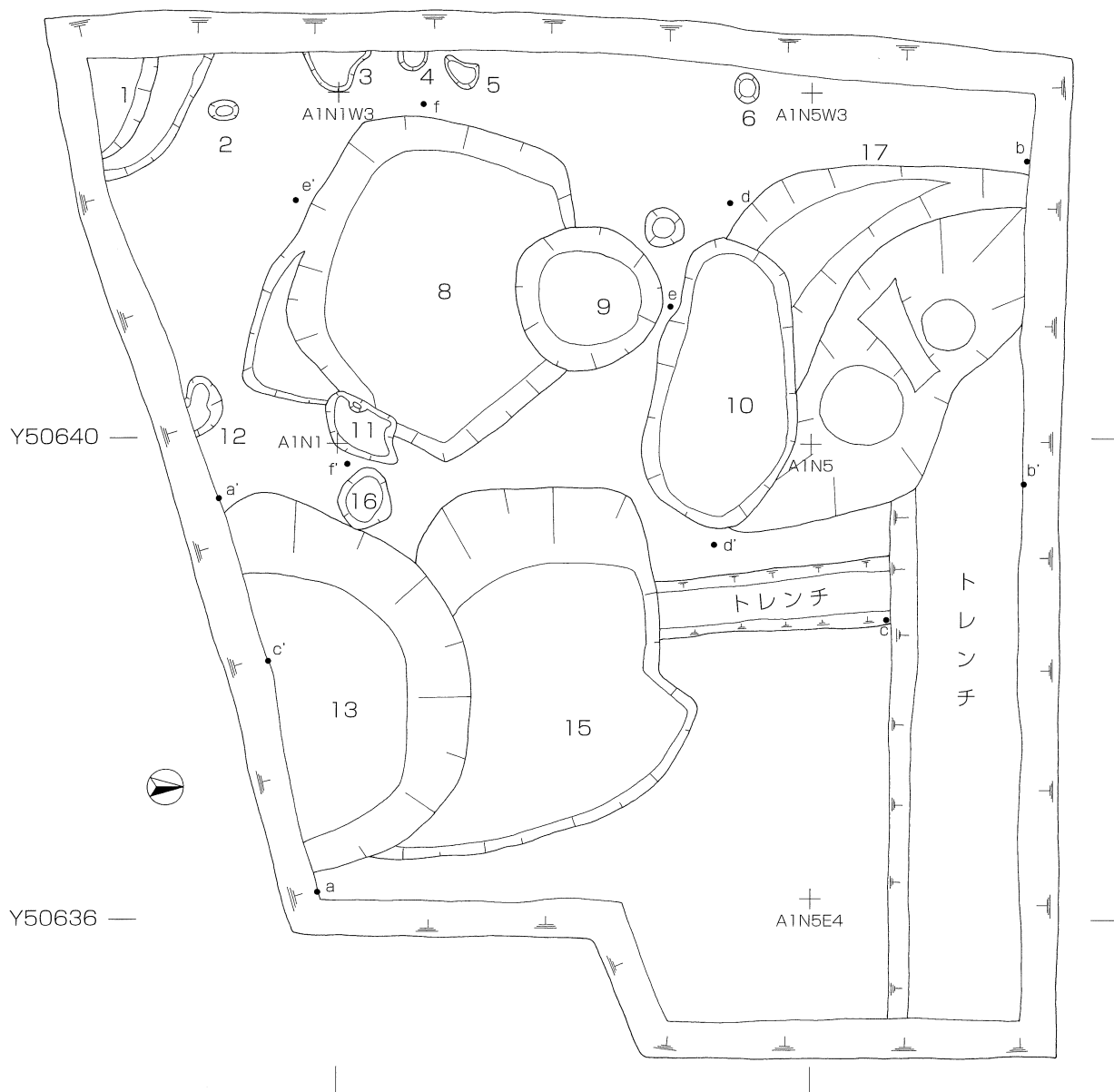
今次調査は三日市A遺跡の北端に位置する。調査面積は小さいが中世の井戸や土坑などの遺構が密集して検出され、土師器皿や越前焼甕などが出土した。本遺跡は近隣で実施した調査によって中世の集落遺跡であることが判明しており、今次調査区は当該時期の集落の一部と考えられる。

報告書抄録

ふりがな	みっかいちAいせき2							
書名	三日市A遺跡2							
副書名	共同住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	永野 勝章							
編集機関	野々市町教育委員会							
所在地	〒921-8510 石川県石川郡野々市町字三納18街区1 TEL: 076-227-6122							
発行機関	野々市町教育委員会							
発行年月日	西暦2011年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査機関	調査面積㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
三日市A遺跡	野々市町字二日市町	17344		36°32'04"	136°32'21"	20090907) 20090914	94㎡	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
三日市A遺跡	集落跡	縄文・古代・中世		井戸、土坑		縄文土器、須恵器、中世土師器、中世陶器		
要約	今次調査では中世の井戸や土坑が検出され、中世土師器皿や中世陶器などが見つかった。近隣で実施した発掘調査によって中世の集落遺跡であることが判明しており、今次調査区は当該時期集落の一部と考えられる。							

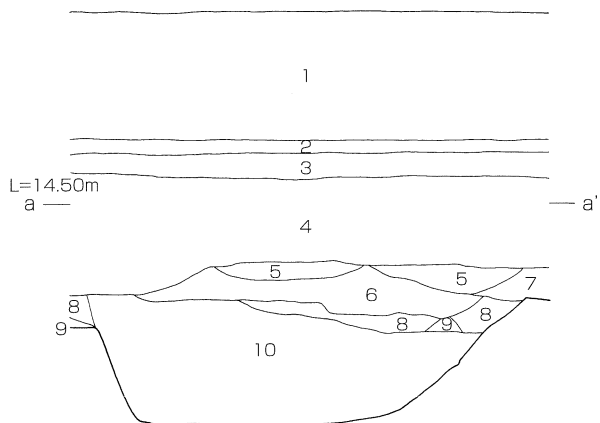
X59641 |

X59645 |



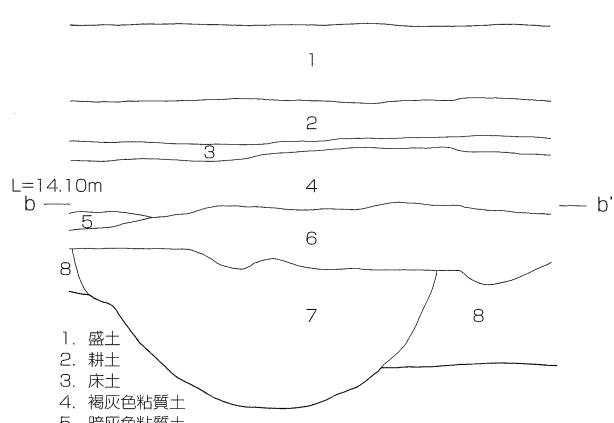
南側壁面

井戸13



北側壁面

井戸17

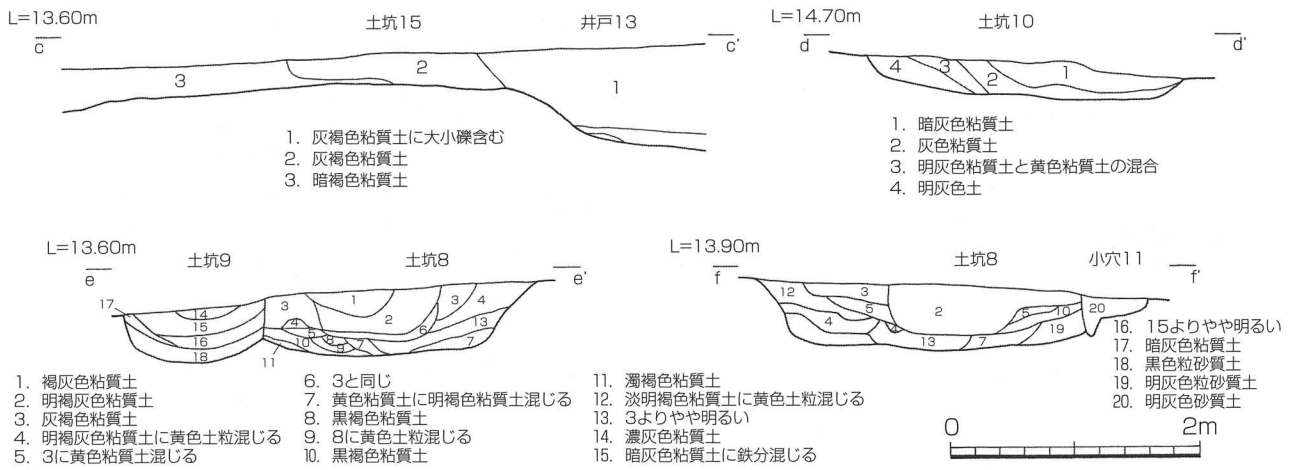


- | | | |
|----------|-------------------|------------------|
| 1. 盛土 | 5. 暗褐色粘質土に黄色土粒混じる | 9. 灰褐色粘質 |
| 2. 耕土 | 6. 暗褐色粘質土 | 10. 灰褐色粘質土に大小礫含む |
| 3. 床土 | 7. 4よりやや暗い | |
| 4. 褐色粘質土 | 8. 明褐色粘質土と黄色土の混合 | |

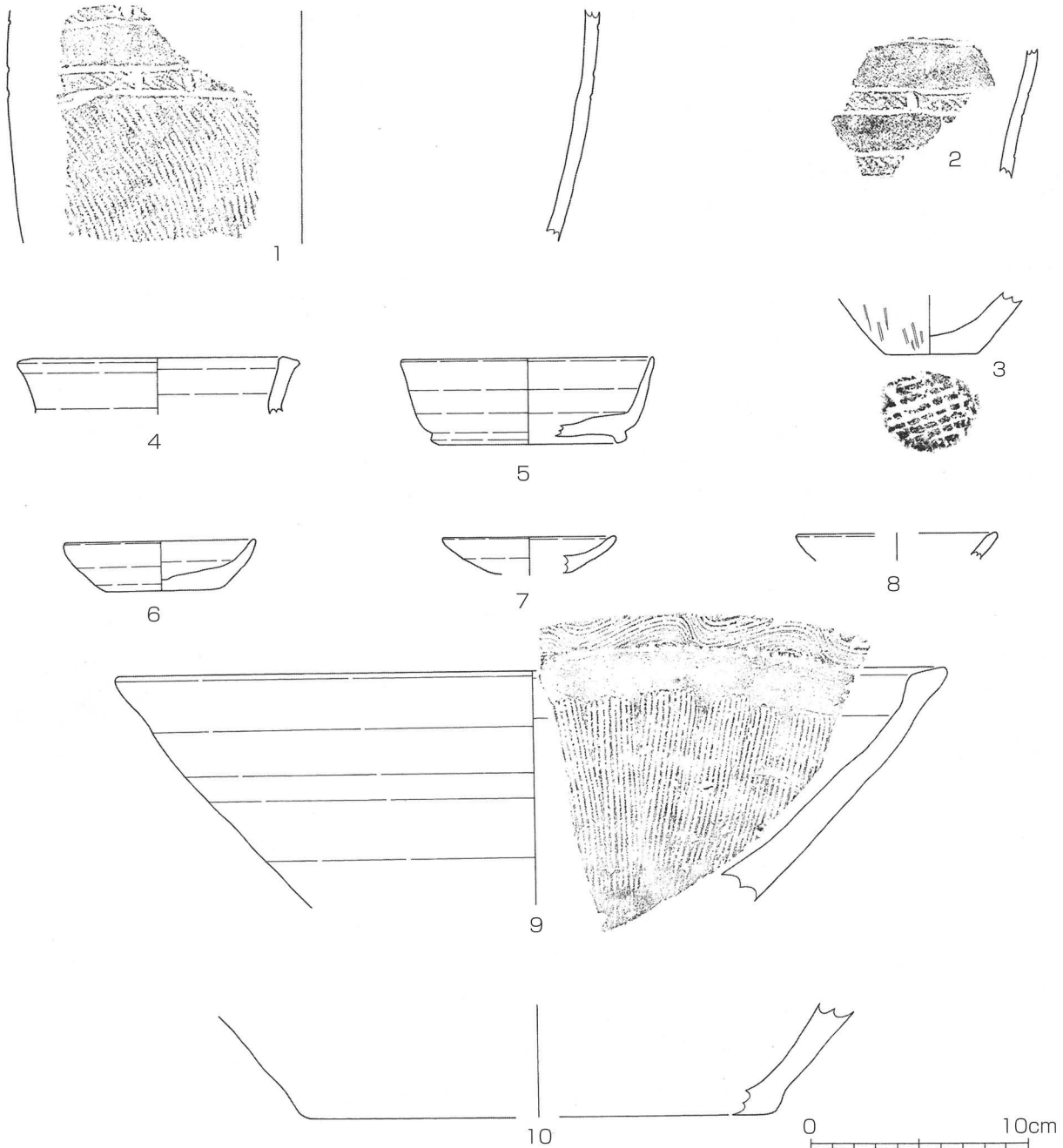
- | |
|------------|
| 1. 盛土 |
| 2. 耕土 |
| 3. 床土 |
| 4. 褐色粘質土 |
| 5. 暗褐色粘質土 |
| 6. 暗褐色粘質土 |
| 7. 暗灰褐色粘質土 |
| 8. 暗褐色粘質土 |



第2図 三日市A遺跡遺構図 井戸13・17土層断面図 (S=1/60)



第3図 土坑8・9・10、15 井戸13土層断面図 (S=1/60)



第4図 遺物実測図 (S=1/3)



完掘（東から）



井戸13断面（南から）



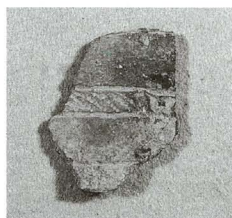
土杭10、井戸17（南から）



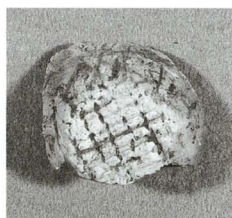
土杭8・9（西から）



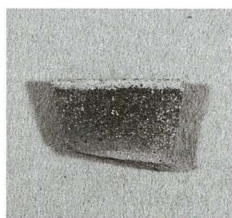
1



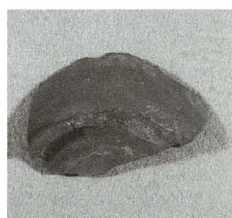
2



3



4



5



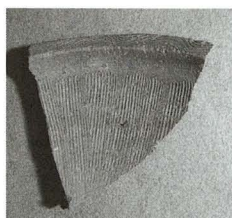
6



7



8



9



10

共同住宅建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

三日市A遺跡

発行日 平成23年3月31日
発行者 野々市町教育委員会
〒921-8510
石川県石川郡野々市町字三納18街区1
電話 076-227-6122
印刷 (有)アサヒヤ印刷